

## 整腸剤

日本薬局方 タンニン酸アルブミン

# ※※タンニン酸アルブミン「ファイザー」原末

ALBUMIN Tannate [Pfizer]

貯法：遮光、気密容器、室温保存  
使用期限：5年  
(容器に表示の使用期限内  
に使用すること)

注意：「取扱い上の注意」の項参照

承認番号	23100AMX00096
薬価収載	2019年6月
販売開始	1953年9月
再評価結果	1981年8月

### 【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

- (1) 出血性大腸炎の患者〔腸管出血性大腸菌(O157等)や赤痢菌等の重篤な細菌性下痢患者では、症状の悪化、治療期間の延長をきたすおそれがある。〕
- (2) 牛乳アレルギーのある患者〔ショックまたはアナフィラキシー様症状を起こすことがある。〕
- (3) 本剤に対し過敏症の既往歴のある患者

### 【原則禁忌(次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること)】

細菌性下痢のある患者〔治療期間の延長をきたすおそれがある。〕

### ※※【組成・性状】

#### 組成

販売名	タンニン酸アルブミン「ファイザー」原末
成分・含量 (1g中)	日局 タンニン酸アルブミン 1g (本剤は、タンニン酸とたん白質との化合物であり、そのたん白質は乳性カゼインである。)

#### 製剤の性状

本剤は淡褐色の粉末で、においはないか、またはわずかに特異なにおいがある。

### 【効能・効果】

下痢症

### 【用法・用量】

タンニン酸アルブミンとして、通常、成人1日3～4gを3～4回に分割して経口投与する。  
なお、年齢、症状により適宜増減する。

### 【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)  
肝障害のある患者〔肝障害を悪化させるおそれがある。〕

2. 相互作用

- (1) 併用禁忌(併用しないこと)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
経口鉄剤	併用により相互に作用が減弱することがあるので、併用しない。	本剤は鉄と結合しタンニン酸鉄となり、タンニン酸による収れん作用が減弱すると考えられる。

- (2) 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
塩酸ロペラミド	塩酸ロペラミドの効果が減弱するおそれがあるので、投与間隔をあげるなど注意する。	本剤により塩酸ロペラミドが吸着されることが考えられる。

### 3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

- (1) 重大な副作用(頻度不明)

ショック、アナフィラキシー様症状：

ショック、アナフィラキシー様症状を起こすことがあるので、観察を十分に行い、呼吸困難、蕁麻疹、顔面浮腫等の過敏症状あるいは気管支喘息発作等の症状が発現した場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

- (2) その他の副作用

種類	頻度	頻度不明
長期・大量投与 <sup>注)</sup>		肝障害
消化器		便秘、食欲不振

注) 長期又は大量投与を避けること。

### 4. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

### 【薬効薬理】

本剤を経口投与した場合、水に溶解せず、口腔、胃では分解を受けず収れん作用を現さないが、腸管内で唾液により徐々に分解してタンニン酸を遊離し、全腸管に緩和な収れん作用をあらわすことにより、止瀉作用を示す。

### 【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：〔日局〕タンニン酸アルブミン(Albumin Tannate)  
〔日局別名〕タンナルビン

性状：本品は淡褐色の粉末で、においはないか、またはわずかに特異なにおいがある。

本品は水またはエタノール(95)にほとんど溶けない。

本品は水酸化ナトリウム試液を加えると、混濁して溶ける。

### 【取扱い上の注意】

アルカリにより分解する。

抱水クロラールやヨウ化物と混合すると湿潤する。

### 【包装】

500g

### ※【文献請求先】

ファイザー株式会社 製品情報センター  
〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7  
学術情報ダイヤル 0120-664-467  
FAX 03-3379-3053

製造販売元

マイラン製薬株式会社  
大阪市中央区本町2丁目6番8号

※販売

ファイザー株式会社  
東京都渋谷区代々木3-22-7

